

専門研修プログラム名	高月病院 精神科専門医研修プログラム	専門研修プログラム
基幹施設名	医療法人社団 東京愛成会 高月病院	
プログラム統括責任者	渡辺岳海	

専門研修プログラムの概要	<p>高月病院は「ひとの持つ自然治癒力を大切にした精神科医療を提供する」という理念の基に、地域社会に根ざした臨床実践的な内容のプログラムを目指している。当院は、東京都八王子市郊外に位置し、約2万坪の広い敷地の中に9病棟・516床を有する。院内には、約300㎡の体育館、4000㎡のグラウンドに加え、農園なども整備されており、これらの施設を利用したりハビリテーションプログラムも用意されている。地域社会における医療福祉活動として保健所相談への医師派遣し、法人内の3ヶ所のサテライトクリニック（昭島市、立川市、杉並区）、デイケア、訪問看護、グループホームのスタッフらと共に地域の各機関と緊密な連携関係を構築している。専攻医は、精神科急性期からアルコール依存症、認知症、地域社会での生活のサポートに至るまでの症例を経験することにより精神科医療のスタンダードを身に着けることが出来る。</p>	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	<p>基本的な勤務は月～金とする。急性期の患者を多く見ることになるが慢性期患者や地域外来で支えている患者の診察も行ってもらう。輪読会及び事例検討会をしており、輪読会では一般精神科領域と精神療法領域の専門書を利用し別日に開催している。事例検討会は月2回程あり、専攻医及び指導医との意見交換をしてもらい症例理解を深めてもらう。</p>	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	<p>疾患の概念および病態を把握し、成因仮説を理解する。精神・身体症状を的確に把握して診断し、適切な治療を選択し、経過に応じて診断と治療を見直す。患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立し、病歴を聴取して精神症状を把握するとともに自らの心理的問題を処理する。</p>
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	<p>定期的な症例検討会及び輪読会を開催している。精神・身体症状を的確に把握して診断し、適切な治療を選択できるようになるために専門書を利用した輪読会を行っている。精神療法に関しては事例検討会も行い具体的な対処法や症例の理解、治療者と患者の間におこる心理的相互関係を理解し治療をおこなえることを目標とする。</p>
	学問的姿勢	<p>より良い医療を提供するために、探求心を常に持ち最新の知見に接するようにする。孤立することなく同僚や指導医との意見交換を常に行い自身の考え方や診療行為を客観的に評価できるようにする。</p>
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	<p>患者を全人的に理解し、患者・家族と良好な人間関係を確立し、病歴を聴取して精神症状を把握するとともに自らの心理的問題を処理する。日常の臨床で、自らの行動を人権及び自己決定権の尊重という視点から点検する態度を身につける。</p>
	年次毎の研修計画	<p>各施設での研修状況を相互に評価し、専攻医の意見を参考にしながら修正改善を行っていく。</p>

施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	研修施設群と研修プログラム	当基幹病院としての連携先病院は、東京都板橋区にある日本大学板橋病院、東京都西東京市にある薫風会山田病院、埼玉県和光市にある菅野病院があり協力して研修プログラムを進めている。また、東京医科歯科大学及び多摩総合医療センターの連携病院としても当院は機能している。
	地域医療について	地域社会における医療福祉活動を重視しており、近隣の保健所が行っている保健相談への医師派遣、法人内の3ヶ所のサテライトクリニック(昭島市、立川市、杉並区)、デイケア、訪問看護、そしてグループホームのスタッフらと共に地域の各機関と緊密な連携関係を構築している。
専門研修の評価	研修期間中の研修項目の達成度、多職種による評価、経験症例数を評価し、それまでの形成的評価を参考として、専門的知識、専門的技能、医師としての備えるべき態度を習得しているかどうか、並びに医師としての適正があるかどうかをプログラム管理委員会の審議を経て判定を行う。	
修了判定	研修ガイドラインに則って3年以上の研修を行い、研修を終えた時点で研修期間中の研修項目の達成度、多職種による評価、経験症例数を評価し、プログラム管理委員会の審議を経て判定を行い、研修プログラム統括責任者により受験資格が認められたことをもって研修を終了したものとする。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	研修実態の把握に努め環境整備をすすめ、必要時には専攻医と面接を行ってプログラム及び指導医に対する評価を得る。各施設での研修終了後に、研修歴の承認を行い、3年以上の研修後には終了判定を行う。
	専攻医の就業環境	専攻医には専用の机・ロッカーを用意し、最新の知識を得るためにインターネット環境を整備し学習時間を確保するようにしている。
	専門研修プログラムの改善	各施設での研修終了時に専攻医よりの評価(プログラム・施設・指導に対する評価)を受ける。研修実績管理システムにて内容を確認の上、プログラム管理委員会にて審議をし、各施設と連携しつつ改善をしていく。
	専攻医の採用と修了	日本専門医機構HPに掲載される案内を確認の上、専攻医の募集・採用を行う。研修ガイドラインにしたがって3年以上の研修を行い、研修を終えた時点で研修目標の達成度及び多職種評価を行い終了判定をおこない受験資格が認められたことをもって研修を終了したものとする。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	特定の理由のために専門研修が困難な場合は、本学会の専門医研修委員会に申請することにより専門研修を中断することができる。また、他のプログラムへ異動しなければならない特別な事情が生じた場合は、他のプログラムへの異動ができるものとする。
	研修に対するサイトビジット(訪問調査)	連携各機関へ当施設の指導医が訪問し、研修現場を見学し、現場関係者の意見を聞き研修の進捗状況を把握するようにする。

<p>専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。</p>	<p>長瀬幸弘（高月病院院長）、長瀬輝誼（高月病院理事長）、渡辺岳海（高月病院副院長）、永田隆雄（高月病院医長）、中尾浩二（高月病院医師）、一条慧（高月病院医師）、渡辺恵美（高月病院医師）、土屋伸子（高月病院医師）</p>
<p>Subspecialty領域との連続性</p>	<p>精神科専門医Subspecialityの取得を希望される場合は、大学病院等の関係機関と連携をとり、資格取得に向けた研修を行ってもらう。</p>